は　じ　め　に

「東海大学教育研究年報」（以下、年報）は、当該年度における自己点検・評価活動報告書としてまとめております。この度、2008年度の活動結果を年報としてまとめましたのでご報告いたします。

2008年度年報は、2008年４月に同一法人内の三大学（東海大学、九州東海大学、北海道東海大学）が統合されたことを受け、統合東海大学として初めての年報となります。その内容は、従来からの自己点検・評価報告書としての性格はそのままに、前年度までの評価体制を踏襲したものとなっております。

本学における自己点検・評価活動は、学部等の各部署における自己点検・評価活動を基礎として、それぞれの評価委員会が中心となって実施、それらの結果を大学評価委員会（及び、教育研究年報委員会）にて統括的に確認の上、「年報」として編集いたしました。

2008年度年報では、各部署において、可能な限りより具体的な目標を設定し、その目標をどの程度達成できたかを点検評価する内容へと進化したものとなっております。

また、従来からの取り組みと同様、より見やすく、活用しやすくするために、「本編」「大学基礎データ」「資料編」「研究業績目録」の四篇に分けて編集しています。

「大学基礎データ」「資料編」では、大学における人材育成面について、「入試状況」「学位取得状況」「就職状況」に加え、教員一人当たりの「平均授業時間数」や学生の「副専攻科目履修状況」、「単位互換・認定状況」、「学生による授業アンケート結果概要」等の資料を、また、研究活動や財務面での状況報告として、東海大学の「財務」の概要に触れるとともに、「医学部付属病院」「海洋調査研修船」等の運用状況や、研究費の全貌に関する資料も記載しております。

その他、報告書の記載内容を裏付けるための東海大学の全活動に関するデータについても記載し、それら数値データに関しては、グラフ等を用いて、より多くの方々にご理解いただけるよう努力いたしました。

このように１年間の自己点検・評価活動および関連するデータを「年報」としてとりまとめ、皆様にお届けすることは、大学として当然の責務であり、これからの大学を考えていく上でも極めて重要な取り組みであると考えております。

グローバル化が一層進む現状において、大学の教育研究活動における質の保証を確実なものとしていくためには、自己点検・評価活動そのものを、その中心的な原動力にしていかなければならないと考えております。

皆様におかれましては、是非、本報告書にお目を通していただき、忌憚のないご意見・ご叱声をお聞かせいただければ大変幸いに存じます。

東海大学学長

高 野　　二 郎